

第 1 回二セコ町自治創生協議会における指摘事項と対応方針（案）

- 本資料は、第 1 回協議会における各メンバーのコメントを下記 2 つの観点で分類し、とりまとめたものである。
 1. 自治創生の進め方に関する指摘事項及び対応方針
 2. 基本目標案の導出に向けた地域資源及び地域課題に関する意見

1. 自治創生の進め方に関する指摘事項及び対応方針

◎総合戦略策定を進めていくにあたり、喫緊で個別具体的な対応が求められると判断した指摘事項について、対応方針とともに下記に示す。

＜二セコ町自治創生協議会の設置・運営方針＞

指摘事項	対応方針
—	—

＜二セコ町の人口動態・経済分析＞

指摘事項	対応方針
<p>（八木委員）</p> <p>転出入のデータについて、「その他」が占める割合が大きすぎるあまり、データとして参照できる価値を出せていない。また、どの地域から転入していて、どの地域に転出しているかの調査も必要ではないか。【資料 3/ P.28-29】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ まずは、二セコ町「戦略的住まい・まちづくり」政策検討会議の平成 26 年度中間報告書のアンケート結果を参考にする。 ✓ その他、町として把握できる転出入状況を精査する。 ✓ 必要に応じて、鹿児島県長島町のアプローチ（転出者の聞き取り調査）を参考に調査を検討する。
<p>（八木委員）</p> <p>二セコは夏と冬で雇用先が変わるような特殊な環境にも関わらず、通年で雇用を分析してしまっている。リゾート地ということもあり、四季の観点を入れた雇用の分析が必要なのではないか。【資料 3/ P.31-】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ まずは、ハローワーク倶知安に二セコエリアの季節別の情報が集約されていないか確認する。 ✓ 上記で難しい場合には町民アンケート調査での分析を検討する。 ✓ 必要に応じて、地域の中心的企業に対するヒアリングを行い、把握している情報や取組状況などを聞き取る。

<p>(山田委員・後志総合振興局・日本政策投資銀行)</p> <p>外国人の観点から分析するというのはいかがか。</p>	<p>✓ 町民アンケートは外国人も対象としており、外国人向け町民講座の具体化も行っていく。</p>
<p>(小磯座長・李副座長)</p> <p>10歳未満や30代の転入がプラスとなっているのは非常に特徴的だと感じるため、この部分についての要因を深掘りすることが、ニセコ町の自治創生にとって重要なポイントとなるのではないかと感じる。</p> <p>【資料3/P.26】</p>	<p>✓ 町民アンケートにおける転入理由から、要因を分析する。</p> <p>✓ ニセコ町の人口増加傾向の理由を精査して「地方人口ビジョン」に盛り込んでいく。</p>
<p>(後志総合振興局)</p> <p>30代の有配偶率が低下しているのには、雇用の観点に関係するのではないかと感じる。</p> <p>【資料3/P.17, P.19】</p>	<p>✓ 町民アンケートの「雇用に関する回答」について年齢別の分析を試みる。</p>

<ニセコ町の自治創生の方向性>

指摘事項	対応方針
<p>(八木委員・下田委員・後志総合振興局)</p> <p>住民には人口減少に対する危機感が足りていないのではないかと感じる。住民が真剣に将来を考えるよう町からニセコ町の青写真を提示するなどして当事者意識を持ってもらうことが必要ではないかと感じる。</p>	<p>✓ 将来予測される外的要因や影響などをより精査して「地方人口ビジョン」を策定するほか、町民講座などを通して、町民へ危機感の発信を続けていく。</p>
<p>(田邊委員・日本政策投資銀行)</p> <p>総花的な戦略とするのではなく、ニセコ町に必要な部分に重点化していくことでニセコならではの「地方版総合戦略」とすることが非常に重要なのではないかと感じる。</p>	<p>✓ 国の基本目標にこだわらず、ニセコ町の「地域課題」・「地域資源」を踏まえた基本目標を柔軟に検討していく。</p> <p>✓ 第2回協議会で基本目標(案)を示して議論いただく。</p>
<p>(田邊委員)</p> <p>オール町民でまちづくりを進めることが今回の「地方版総合戦略」では必要だと感じており、町民の意見を確かに拾い上げられるような機会(ワールドカフェ、町民講座など)を開催していくことも考えてみていいのではないかと感じる。</p>	<p>✓ 町民講座などを積極的に開催し、講座内容についてもさらなる工夫を図っていく。</p>

<p>(井上委員・山田委員)</p> <p>それぞれの連携がうまく図れていない市街地地域、農村地域、観光産業地域間の連携を円滑化することが重要ではないか。</p> <p>(倶知安町は地域内連携を促進している)</p>	<p>✓ 「地方版総合戦略」で二セコ町が総体として目指すべきベクトルを明確にするとともに、二セコ町内での連携の方向性についても議論していく。</p>
<p>(山本委員代理・山田委員・渡邊委員・小樽商科大学)</p> <p>二セコ町単独での議論も大事だが、エリアで課題を解決していくために近隣地域とお互いの不足部分を補えるような連携が重要ではないか。</p>	<p>✓ 周辺市町村との情報共有を密にし、広域的な連携の可能性を引き続き視野に入れる。</p>
<p>(小樽商科大学)</p> <p>いかに転出を抑えるのではなく、転出した町民が将来二セコ町のために戻ってきてくれるようなシビックプライドを持つ人材に育てることが町として必要ではないか。</p>	<p>✓ 町民アンケートや町民講座の議論などを踏まえ、まず、地方創生（人口減少社会の克服）上の人材育成の位置づけを議論する。</p>
<p>(小野委員)</p> <p>障がい者がアクティビティに参加できるような、障がい者に優しいまちづくりも観点としていれていただけないか。</p>	<p>✓ まず、地方創生（人口減少社会の克服）との関係性と優先順位を議論する。</p>
<p>(本間委員)</p> <p>二セコが持っている魅力を実現するためには、あるものをいかに最大限活用していくかを考えていくべき。</p>	<p>✓ 「地域課題」「地域資源」の議論をさらに深掘りしていく。</p>
<p>(小磯座長)</p> <p>人口減少自体にどう地域が生き抜くか、人口減少による活動の縮小、経済の縮小、サービスの縮小が予想される中で、外からの需要をいかに取り込むか、外に逃げている需要をいかにこっちに向けるかといった観点が重要になると感じる。</p>	<p>✓ 人口減少が予測される中、「地方版総合戦略」で二セコ町が総体として目指すべきベクトルを明確にする。</p>
<p>(今野委員)</p> <p>若い人に戻ってきてほしいという気持ちもわかるが、それにとらわれず、年間を通して色々な人がくる街になっていくとよいと感じる。</p>	<p>✓ 町民アンケートや町民講座の議論などを踏まえ、まず、通年雇用の観点を基本目標に盛り込むべきかを議論する。</p>

<町民アンケート>

指摘事項	対応方針
<p>(八木委員) アンケートの調査票については、回答する側の意見や現状を取り入れた調査票とした方がよいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 町民アンケート内容の細部は、必要に応じて町内委員と相談しながら、作り込んでいく。
<p>(田邊委員) アンケートの目的や意図を明確に示す必要があるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 町民アンケートを郵送する際に依頼状を添付し、回答者に対して目的を明確に提示する。 ✓ なお、町民アンケートの目的は、町民の考え方の‘現状分析’。まちづくりの主体である町民の意見を広く収集して客観的データとして活用することを見込み、項目は、町民意見や客観的データとして有用と見込まれる分野に絞り込んでいる。 ✓ 対策のアイデアまでは町民アンケート項目に含めていないが、今後、協議会や町民講座などの場で議論していく。
<p>(田邊委員) 教育の観点が抜けているように感じるため、補足する必要があるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ニセコ町の住みやすさの間に教育の項目を設けることにより、まずは、地方創生（人口減少社会の克服）の観点から、町民がどれほど教育に関して課題を感じているかを分析する。 ✓ その後、具体的な教育の内容については、基本目標に盛り込むべきかともに議論していく。 ✓ 必要に応じて、今後、教育に限らず人材育成（創業・経営研修なども含む。）の観点からも検討していく。

2. 基本目標案の導出に向けた地域資源及び地域課題に関する意見

◎地域資源及び地域課題（資料 4-1：ニセコ町の自治創生の方向性（案））に対する意見を示す。現時点では、各意見別の対応方針まで明示しないが、今後、基本目標案を導出する際に反映していく。

【地域資源】

■ 再生可能エネルギーの潜在力

- ニセコが恵まれている点である、再生可能エネルギーの潜在力を活かさないか。温度の関係上、温泉発電とはいかないが、温泉熱を利用した様々なビジネスも可能である。（本間委員）

■ ニセコ町の教育

- 教育の面について、コミュニティースクールの可能性や幼・小・中の連携に関しては現在討議中であり、ニセコ町らしいものが出来上がっていきけるのではないかと感じている。（渡邊委員）

■ ニセコ高校

- 高校づくりをまちの柱にしている自治体はかなりあり、ニセコ町でも高校は重要な存在になると感じている。（田邊委員）
（島根県の海士町の隠岐島前高校では、魅力ある高校づくりとして進学を重視した学校づくりを進めている。また、長野県白馬高校は観光に特化した学科を来年度から開設することになっている。どちらも、全国から生徒募集を行うことで地域の活性化につなげるねらいがある。）

■ 道外出身者

- ニセコには道外出身者が結構いることから、彼らの意見を活用して、道外からの転入者が増えるようなサイクルを回していければいいのではないかと。（下田委員）

【地域課題】

■ 人口減少に対する住民の危機意識

- 町内に住む方が自治創生に対する意識がないのが課題なのではないか。将来困るのは自分達だという当事者意識を住民が持てていない。(下田委員)
- 住民には人口減少に対する危機感がないのではないか。15年後に倶知安町に新幹線駅ができたときに二セコ町は大丈夫なのか、将来予測される大きな動きを捉え、住民に青写真を示すことで、人口減少に対する危機感をあおる必要があるのではないか。(2026年に札幌オリンピックがきた場合には更に新幹線開通は前倒しされる可能性もあり)(八木委員)
- 一番気になっているのは、人口が減っていくことに対する住民の危機感で、人口が与える影響を生活コスト(公共サービスがいくらぐらいになるなど)などにより身近に感じさせる必要があるのではないかと感じている。(後志総合振興局)

■ 通年雇用と収入安定

- 季節によって労働環境が違うため、同じ人がひとつの職場に居続ける必要はなく、夏と冬で雇用が確保できていればいいのではないか。(井上委員)
- 夏と冬の雇用の違いは地域特性として捉えている。閑散期・繁忙期の違いがはっきりしているものの、それが好きなスタッフも確かにおり、通年雇用が好きな人は東京や札幌に行く傾向にある。(下田委員)
- 春と秋の雇用創出についてテレワークはよい発想だと感じており、これを積極的に進めてもいいのではないか。(井上委員)
- 安定した雇用や保障がないと、どうしても人口は増えない。(今野委員)
- 通年雇用についての指摘があるが、仕事は年がら年中あるものと感じており、若い人が減っていることから、逆に人材が見つからないケースもある。(中村委員)
- 夏と冬の働く場が変わってしまうのが地域性ではあるが、子どもが生まれることを考えると、一定のところ安定した収入がある方がありがたい。子どもが生まれてから女性が働く場がなかなかなく、生まれてから子どもを預ける場も順番待ちであるなど、子持ちで働く人に対する支援が必要と感じる。(木下委員)
- 小さい子どもがいる親の声として、年間を通してではなくちょっとだけ働きたいという意見もある。(高瀬委員)

■ 中核企業の育成・起業の支援策の充実・企業誘致の支援策の充実

- 人口減少の中で外国人が多く入ってくる中で観光面の強化（スキー・ラフティングのガイドなどが雇用を見つけられる環境づくりなど）はいかが。（田邊委員）
- 夏の働き場では平均年齢 60 代で自分だけ 30 代というところがよくある。この仕事が代々受け継がれていくような環境ができていないため、その環境改善という観点も考えられるのではないか。（中村委員）
- グリーンシーズンを活性化させるためのビジネス強化が必要であると感じる。（今野委員）

■ 居場所の充実

- 年寄りの居場所の充実という観点もいれてほしい。（井上委員）
- 特にシングルマザーについては食育にこだわる人が多いと感じており、そういう人が安心して預けられるような場所があるといい。（中村委員）

■ ニセコらしい教育内容

- ニセコらしい教育については、英語だけではなく、確かな基礎学力の養成についても考えた方がよいのではないか。100 マス計算などを導入することにより基礎学力の向上に成功している自治体もある。（井上委員）
- 環境学習、体験学習、他地域の小中学生との交流により、ニセコのよさを知って育っていくことが重要ではないか。その結果として、U ターンを促進できるのではないか。（井上委員）
- ニセコはスキーというイメージがあるが、スキーの授業が少なく、そこを強化してもいいのではないか。（木下委員）
- 世界ビジネスの分校を作るなど、学校を誘致することによる更なる魅力づけも考えられるのではないか。（今野委員）
- インターネットを活用して、自分で考えることを促すような学校教育にしていき、更にはニセコの未来を子どもが真剣に考えていけるような教育環境が作れるとよいと感じる。（中村委員）
- 海外を含めた外の世界を知って、のちのちニセコに戻ってくるようなシビックプライドを持つ人材を、中長期の視野で育成していく必要があるのではないか。（小樽商科大学）
- 転入者が多いという点で、転入者に対する教育を充実させていく必要があるのではないか。（小樽商科大学）

■ 農業の後継者不足と収入安定

- 農業をしたいという人に対する窓口が十分にあるとは言い切れない、さらに拡充してもいいのではないか。(高瀬委員)
- グリーンビジネス、農業の世代交代をどのように実現するかが問題とを感じる。(本間委員)
- 自分の会社では、原野を購入・開墾・野菜を作り、有機野菜を首都圏に直送、この中で就農希望者を巻き込み、将来自立できるような形をとっている。(本間委員)

■ 普通科高校と大学がない

- 普通科高校に行きたければ倶知安高校に行くし、ニセコ町からもそれほど不便ではないため、ニセコ高校を普通科高校にするのではなく特徴化していくのがいいのではないか。(木下委員)

■ 観光メニューとシステムの充実

- インフォメーションセンターを作っていただきたい。観光協会もあるが、情報が足りていない。(井上委員)
- ニセコ町に泊まった人がそのまま居続けられるような場所がニセコにはないと感じており、宿泊機能を強化していくことも必要ではないかと感じる。(中村委員)
- 学生を使ってニセコの夏と冬の観光に関するアンケートをした結果、夏の観光では圧倒的に1泊2日の短期滞在が多く、小樽・札幌経由以外に、函館に行く・函館から来るケースも多いことがわかったため、函館とニセコといった観点での施策もありと感じている。(李副座長)
- 移住してきた方の多くの意見として高校の頃の体験が起因していると感じているため、修学旅行に対する取組強化してもいいのではないか。(木下委員)

■ 地域内での連携

- ニセコは棲み分けがはっきりしており、市街地地域、農村地域、観光産業地域とあるが、連携がうまくできてないのではないか。連携に工夫が必要だと感じる。(井上委員)

■ ニセコエリアの広域連携

- 倶知安町も以前は山側・町側に分かれてしまっていたが、今は上手く連携できて一体化の方向に動けており、ニセコ町においても、打ち出そうとしているところの地域内外での共生・連携が重要と感じる。(山田委員)
- 役場の意見にもあるが、5,000人規模での視点でいいのか、またニセコ町だけで解決できない面もでてくるのではないかと感じており、広域的な発想というのは必要になってくるものと感じる。(渡邊委員)
- ニセコ町のみならず、ニセコ地域として視野を持ち、互いに高めあうような連携を図れるとよいのではないかと感じる。(小樽商科大学)

■ ニセコ移住希望者への対応

- ニセコにお嫁にきたい人がいるが、どうやって来ればいいのか分からない状態になってしまっている。(高瀬委員)

■ 限界集落の存在

- 5年前のデータになるが、ニセコ町に10ある地域のうち、すでに1つが限界集落、4つが準限界集落となっており、残りの5つは存続集落となっている。(井上委員)

【その他】

■ 移住が多い理由

- 30代の移住が多い点については、自然やスキー・スノーボード・ラフティングが好きなことが移住の理由として多いのではないかと感じる。(木下委員)

■ 情報発信の重要性

- 移住理由は人から聞いた、行って見たなどあると思うが、いずれにせよ情報発信は重要だと感じる。(山田委員)

■ コミュニティ形成の重要性

- イギリスやアメリカで生活したが、向こうでは地域に溶け込みづらかった経験があり、コミュニティのあり方や新たな交流の場などの重要性を感じている。(日本政策投資銀行)

ニセコ町の「地域課題」(案)

別添1

- ・通年雇用と収入安定
- ・完全失業率の上昇傾向

- ・中核企業の育成
- ・起業の支援策の充実
- ・企業誘致の支援策の充実

- ・医療機関の充実
(産婦人科・小児科等)
- ・子ども・**高齢者**の居場所の充実

ニセコらしい**人材育成**
(英語、**環境、食、スポーツ、事業者研修、シビックプライド**等)

豪雪・寒冷への対応

普通科高校と大学がない

まちづくり基本条例に基づく住民自治の実践

環境モデル都市
CO2削減2050年目標の達成

情報へのアクセスしにくさ

人口減少問題への認識不足

(人口減少克服上の観点)

地方における安定した雇用を創出する

地方への新しいひとの流れをつくる

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

国の基本目標以外のニセコ町の地域性

- ・農業の後継者不足と収入安定
- ・農業に不向きな土地(小規模、石、水はけの悪さ、山坂等)
- ・6次産業化

観光メニューとシステムの充実
(通年、国内向け等)

商工業機能の持続

- ・住宅不足・住宅用地不足
- ・住宅と入居者のミスマッチ
- ・住宅のストックマネジメント
- ・空き家の利活用

道の駅ビュープラザの老朽化

近隣町村へのアクセス向上
(2次交通の確保)

上下水道等インフラのストックマネジメント

ニセコ「エリア」の広域連携

ニセコ町の「地域資源」(案)

別添2

(人口減少克服上の観点)

